

はじめに

医療従事者が統計を学ぶ目的は、統計学という学問を理解したいというよりも、研究を円滑に進めるための道具として必要だから学ぶ、ということがほとんどなのではないかと思います。私は2020年に株式会社データシードを設立してからというもの、医療従事者への統計教育を実践してきました。そして相談に来てくださる方の多くが抱える問題は「目の前にあるデータに対して、どのような統計解析を実施すればよいのか?」という、統計の使い方に関する問題です。統計の使い方が大きなハードルとなり、研究が進まない現状があります。

そのため、弊社では研究における統計の力を3つに分解してお伝えしています。その3つが「1. 統計学の理論」「2. 統計手法を適切に選択する判断力」「3. 選択した統計手法を統計解析ソフトで実践できる実践力」です。統計学の理論的なことは多くの書籍から学ぶことができます。しかし、いくら理論を学んでも統計を使うことはなかなか難しいものです。例えば、いくらt検定について学んだとしても、目の前にあるデータに対してt検定が適切かどうかを判断できる力が必要であり、t検定が適切だと判断できたら、統計解析ソフトでt検定を実践する力が必要になります。統計学の理論は多くの書籍がある一方、判断力と実践力を解説している書籍は少ない印象です。そのため本書では、特に統計における判断力と実践力にフォーカスを当てて解説しました。統計解析ソフトは無料で使えるRを用いて、Rの操作を解説する動画と、Rのコードを付録に用意しました。

今では偉そうに統計をお伝えしていますが、大学で統計を専門に学んでいなかった私は、2011年に新卒で製薬会社に入社した際に、統計ができなくて本当に苦労しました。そんな当時「このような本があったらよかったな」と思うような本を目指して執筆したのが、本書です。本書がきっかけになって、研究が楽しい、統計は楽しい、と思っていただけだと嬉しいです。

本書の監修をご快諾いただいた横浜市立大学医学部臨床統計学主任教授の山本紘司氏、刊行するにあたってご尽力いただいた羊土社の秋本佳子氏、高野真実氏に、深く感謝申し上げます。

そして最後に、本書を執筆するにあたって常に協力してくれた家族に感謝いたします。

2025年6月

株式会社データシード
吉田寛輝